

刻む会 たより

No.62

2016. 9. 30

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円 《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

メール

kizamukai@chouseitankou.com (※アドレスが変更になりました)

韓国大邱(テグ)の遺族会総会に参加して

〜 四半世紀にわたり「築かれた信頼関係」を力に

共同代表 内岡貞雄

1. はじめに

74周年追悼集会(2016年1月30日)の翌日、韓国遺族会の皆さんと恒例の懇談会を持ち、今年7月に韓国遺族会総会が大邱(テグ)で行われることになった。「刻む会」からも島敏史顧問をはじめ5名が参加することにした。

今回の訪韓目的は、遺族の方々(息子、娘、孫、ひ孫、甥等々)からDNA検体採取することにある。過去2回、遺族11人からDNA採取をしたが、その保管が十分でないことが分かった。今年3月、DNA鑑定院内学習会(東京)に参加した小畑事務局長から新たな情報もたらされた。それは、①採取したDNAは自然のままでは劣化するため、マイナス80度の状態で保管する必要がある。②福岡市のNPO法人遺伝子情報センターが最新

技術と設備(久留米市研究所)を持っているということだった。

また、日本政府(厚生労働省)が韓国人遺骨(軍人・軍属)に関して、韓国人遺族のDNA鑑定要求に協力する方向で検討する方針で、韓国政府から具体的な提案があれば適切に対応する(ただし、費用負担は韓国政府)という朗報も届く。しかしながら「刻む会」としての今一つの「ハードル」は、アジア・太平洋戦争中に起こった長生炭鉱水没事故犠牲者を上記の対象に加えてもらうことである。そのためには韓国遺族会との『信頼関係』を土台に、各方面から「広範な力」を結集することが不可欠だ。

2. 総会&懇親会

7月2日(土)、大邱の街は早朝から豪雨に見舞われるが、その後、天候は回復し強い日差しがもどった。私たちは大邱市場をひと回りして中区大鳳洞の会場に向かった。真覚(チンガツ)文化会館の大広間には、すでに遺族の皆さんが集まっており、金亨洙会長、楊玄副会長、孫鳳秀事務局長はじめ遺族の

方々が笑顔で出迎えてくださった。会場の予約は大韓佛教眞覺宗の総務部長さんのご配慮に依るものという。感謝いたします。開会の挨拶等は後回し、早速、遺族の方々のDNA採取が始まった。採取者の名前、犠牲者との続柄、真相糾明委員会報告書のナンバー、検体ID、備考等々のチェックが必要だ。検体者の顔と名前をまず確認し、データを正確に記録していく。韓国語のやり取りなので、堤さん(通訳)にご苦勞をかけながら、作業に当



遺族会総会における DNA 採取の様子

たる小畑さんと山内さんは大変だった。採取作業を担当された孫事務局長も大忙しの様子。二、三人の検体を終えた頃から、作業が順調に動きはじめた。当初、何人が出席するか分からなかったが、遺族参加者は35名、うち17名のDNA採取が行われた。

□内採取は時間をかけて丁寧に行わなければ正確なデータは取れないらしい。今後DNA採取に当たっては、事前の確認作業をしっかり行うことが大切だ。(福岡市の遺伝子情報センターの助言)。その間、私は会場を廻って遺族の皆さんと挨拶を交わした。遺族の中に、2012年の70周年追悼集会で証言された尹玉基尼僧の姿を見つけ、とても嬉しかった。1時間が過ぎた頃、DNA採取は無事終了した。

総会は孫鳳秀さんの司会で行われた。私たちは故山口武信さんの意志を受け継ぎ、「遺骨引き揚げ」という目的に全力で取り組むことを誓った。会場には、今年74周年追悼式に参加された韓国仏教宗団協議会の役員の姿もあった。孫さんが「大韓佛教観音宗」の住職・信徒さん(約75名)が、来年75周年追悼式には是非出席したいというを紹介、この件について「刻む会」で検討してもらいたいという。もとより私たちは多くの皆さんにご参加いただきたいと思っているが、昨年に続き、追悼式に仏教式の行事が行われることに、特定の宗教に偏らないことに留意して、参加いただく方向で検討したいと答えた。宗教者の参加は、国や主義・主張を超えて、人道上

あるいは命の尊厳の観点からも歓迎すべきことだと思ふ。また、関係する国会議員や地方議員の皆さんにも出席していただければ、日本政府への働きかけにもプラスに働くのではという意見が「刻む会」側から出された。その後、場所を代えて昼食会となり、私たちは仏教協議会や観音宗の方々と「有意義な食卓の場」を持った。

昼食後、孫石川さん(孫事務局長の弟)と申ジュンミンさん(申載鳳さんの息子)のお世話で、洒落たコーヒーショップで「楽しいひととき」を過ごした。(私たちと遺族の皆さん合わせて20名くらいおられたように思う)。「ジュンミンさんは、宇部の懇親会で『韓国のイケメン』と言われていました。ご感想は?」、「ソクチョンさん、韓国HPが刷新され貴重な情報が満載ですね。これからもドンドン増やしてください」、「総会にたくさんのご遺族が出席されてとても嬉しかったです」、「白(ペク)ハルモニ、崔(チエ)ハルモニ、洪(ホン)ハルモニ、いつまでもいつまでもお元気です!」等々、話が弾んだ。カムサハムニダ。



韓国の大邱市場 (2016. 7. 2)

3. 『韓国式』のおもてなし

時は遡るが、わたし達が韓国に到着した初日、7月1日正午過ぎ、韓国仁川国際空港に到着。孫鳳秀事務局長と堤美貴さん(通訳)の出迎えを受け、空港内の食堂で昼食をとるにしながら近況を語り合う。孫さんは仕事に戻られ、私たちは激しい雨の中を、一路、洪川のビール工場に向かった。仁川からソウルにかけて、郊外に林立する超高層マンション群が姿を現しては消え去る。さすがに韓国総人口の50%以上を占める「人口メガロベルト」だけのことはある。

高速道路から北へ60〜70キロ走ると境界線(38度線)だ。2013年7月27日、朝鮮戦争の休戦協定30周年式典が、DMZ(非武装地帯)の瑞和里(ソファリ)「平和と生命のキャンプ」であった。夜のミーティングに福岡の仲間と一緒に塩川正隆さん(73周年追悼集会講師)が参加されていた。南北朝鮮が平和裏に統一されることを願ったの集会だったが、一方で、非常事態に備えた戦車配備の軍事基地やDMZに続く道路を塞ぐための巨石群が周到に用意されていた。

洪川ハイト工場を見学後、私たちは遺族会会場の大邱へ向かった。雨は小康状態だが降り続いた。午後7時少し前によくホテルに到着。走行総距離は500キロを軽くオーバーしたと思う。ご苦労をおかけした運転手さんにカムサハムニダ。

大邱在住の朴洞模さんが、私たちを夕食に招待くださるということでホテルまでお迎え

に來られた。ヒョンモさんご鼻頂（ひいき）の「料理店」に案内していただいた。まずは「ハイトビールでコンペ！（乾杯〜）」。次から次に美味しそうな料理が運ばれてきた。覚えていただけでも、マグロの刺身、大好物のウナギのかば焼き、大小のエビ、カボチャの天ぷらとチゲ、そうそう、握り寿司も出た。実際はもっともっと多かった。もう最後だろーうと思いきや、またもやお皿が運ばれてくる。お腹の限界、やむなく残った料理はホテルに持ち帰った。参りました！これが韓国式のおもてなしだった。翌2日の夕飯には、ヒョンモさんとキム会長、ヤン副会長が一緒だった。大邱郊外の有名な「韓国牛」専門店は、順番待ちの人々で大繁盛だった。皆さんのもてなしに心からカムサハムニダ。

4. おわりに

最終日、仁川国際空港のロビーでの搭乗を待つ時間、島顧問とお話する機会があった。島さんは遺族会と関わってきた足跡をなつかしそうに話された。「一九九二年に韓国遺族会が出来てね、その夏に金永鉉会長が来日し刻む会として初めての追悼式を行ったんですよ。あれから25年、本当に感無量です。初期の大変な時期に通訳の労を取ってくださった裴基秀（ペ・キス）さんには本当にお世話になりました。裴さんは『刻む会』や『遺族会』の事情を承知しているから良かったですよ。一番印象に残っていること？そうだなあ、51周年追悼式（1993年）で孫事務局長が読んだ弔辞かな、本当に胸が締めつけられる思

いでした。それから2006年の釜山、アランホテルで長生炭鉈元労働者にお会いした時のことも忘れられません。特に金景鳳さんがクリスチャンだったこともあって、その後も親しいお付き合いをさせていただいています。今回の遺族会で、なつかしいご遺族の方々とお会いできたことは何よりでした。遺族会総会に参加できたことを心から感謝したいと思います」。

昨日の夕刻、ヒョンモさんたちが、大邱の街が一望できる有名な観光地へと車を走らせてくださった。雨模様の濃い霧のため街並みは見えなかったけれど、皆さんの温かいご厚意はしっかり伝わってきました。本当に有り難いことでした。



会長と副会長、通訳および刻む会メンバー

活動日誌

（前回はより以降）

2016年

※太字：詳細は記事にて紹介

- ▽6月21日(金) 『刻む会たよりNo.61』発送作業
- ▽7月1〜3日(金〜日) 訪韓・遺族会総会出席
- ▽7月8日(金) ヤスク二問題研修会打ち合わせ
- ▽7月14日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する県庁要請行動
- ▽7月22日(金) 第4回運営委員会
- ▽7月26日(火) 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する下関市要請行動
- ▽7月30日(土) 夏の学習会
- ▽7月30〜31日(土〜日) 平和のための戦争展(山口市)パネル展示のみ
- ▽8月5日(金) 第47回韓国人原爆犠牲者慰霊祭
午餐会(駐広島総領事より招待)参加
- ▽8月10〜11日(水〜木) ヤスク二問題研修会
- ▽8月19日(金) 第31回長生炭鉈水没事故問題解決協議会
- ▽8月23日(火) 「歴史・和解・平和」イエズス会日韓社会使徒職交流 講師派遣
- ▽8月24日(水) 山口朝鮮初中級学校補助金力ツトに対する県庁要請行動
- ▽8月26日(金) 第5回運営委員会
- ▽9月3日(土) 第4回関東大震災大虐殺事件を「忘れない」集い(下関)
- ▽9月14日(水) 関東大震災時朝鮮人虐殺93年神奈川追悼会
- ▽9月23日(金) 第6回運営委員会

今年の「夏の学習会」は盛況でした！ 運営委員 横山潤

毎年開催される夏の学習会は、今年は7月30日（土）に、宇部市立図書館2F講座室で行われました。「DVD『アボジは海の底』上映＋内岡貞雄共同代表によるクイズ」というプログラムで、10：00～、11：00～、13：30～の3回実施。当初、「参加者一桁もありうるかも」と懸念されたのですが、図書館入り口でチラシを配っての、井上洋子共同代表の超熱心な勧誘の甲斐あって、初回18人、2回目28人、3回目33人、計79人の大盛況！3回目は、「おそろく使わないだろう」と会場設営の際に後方に下げていた椅子にも座って頂きました。

参加者全員に、韓国海苔のプレゼント（準備の際、1軒のお店では数が足りなくて、2軒目に…でした）。

ちいさい子どもさんからご高齢の方まで、参加者にかなりの幅があったので、進行役の内岡貞雄共同代表は、ご苦労をされていましたが、たくさんの方々が参加され、長生炭鉱のことを広く知って頂く機会になったのでは、と思います。



ヤスク二問題研修会2016 参加報告

日本キリスト教団西中国教区

靖国神社問題特別委員会

委員長 鎌野 真

2016年8月10日（水）から11日（木）にかけて、「ヤスク二問題研修会2016」が開催された。この度は、「日本キリスト教団西中国教区」「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」「人間いきいき研究会（日韓朝の中高校生交流事業を展開）」の三団体による共催であり、27名の参加者が与えられた。

プログラムは、概ね以下の通り行われた。

一日目は、宇部緑橋教会にてDVD「アボジは海の底」を鑑賞し、長生炭鉱の水非常の経緯に加え、国策として推進された戦時下の炭鉱事業の実態について学んだ。次いで、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」共同代表である内岡貞雄さんより、「非戦&平和、個人の尊重」と題して講演をうかがった。同水非常について更に詳細な内容が語られ、この問題の本質が分かりやすく説明された。

二日目は、フィールドワークを行った。長生炭鉱追悼ひろば、新浦炭鉱殉難者の墓、浜中集会所、強制労働者寮跡地、旧長生炭鉱駅・本坑口・ピーヤ、長生炭鉱殉難者之碑などを、内岡貞雄さんの説明を受けながら見て回り、途中、新浦会館にて当時の事故目撃者の方の証言を聞くこともできた。

本会を「ヤスク二問題研修会」として開催したのは、長生炭鉱水非常の経緯・事後経過に靖国神社問題と根底で通じる「犠牲のシステム（高橋哲也著『靖国問題』より引用語）」があるからである。1942年に、長生炭鉱は沖合1キロメートルの坑道から海水が流入し、作業員183名が水没死されたのであるが、同炭鉱は朝鮮人強制労働者の比率が極めて高く、そのためもあって事故後、遺体の引き上げや賠償がなされなかった民族差別の背景がある。また、遙か時を経て、1982年に地元名士たちによって「長生炭鉱殉難者之碑」が建てられ、そこには「永遠に眠れ 安らかに眠れ 炭鉱の男たちよ」と碑文が刻まれ、国策としてすすめられた炭鉱事業や朝鮮半島植民地化政策の被害者である水没者を、「日本国の発展のために命を懸けて働いた「英霊」と美化し、加害国（加害者）の責任問題を意図的に不明瞭化している。また、被害者を「英霊」として祀り続けることで、強者が弱者に犠牲を強い続ける社会が保たれていく。これは、靖国神社が持つ機能と何ら変わらない。

同水非常は、山口県宇部市の地にある、確かな「ヤスク二」問題であった。この歴史を



編集より

今回の「ヤスク二問題研修会」は、本文のとおり、「日本基督教団西中国教区靖国問題特別委員会」、「刻む会」、「人間いきいき研究会」の共催で開催しました。その理由の一つには、人間いきいき研究会を通じてこの間交流が深まっている韓国・富川（プチョン）市より来日した高校生が長生炭鉱を学びに来る時期が重なった事が背景としてありました。3団体共催は初めての試みですが、結果として、中高生も交え、国や世代を超えた交流の良い機会となりました。

正確に掘り起こし、犠牲者や遺族の方々の本当の苦しみに寄り添おうとする「長生炭鉱水非常を歴史に刻む会」の姿に、ヤスク二問題と向き合う姿を学んだ。海底に今なお沈む犠牲者を真に追悼するためにも、参加者一同がそれぞれの生活の場で、各地にあるヤスク二問題と向き合っていかなければならないことを痛感した。



【夜の交流会の様子】

人間いきいき研究会で日韓交流している中高生たち(上)と日本基督教団西中国教区の皆さん(下)



韓国人原爆犠牲者慰霊祭に参列して

共同代表 井上 洋子



平和公園にある韓国人原爆犠牲者慰霊碑

ああ、あまりにも悲しい。

考えれば考えるほど胸に湧き上がる憤怒を鎮められないのだ。

国を失って悲しいのも耐え難いが、食べて生きる術もなく、生きる為に、

祖国を侵奪した敵の地に来て、奴隷のような生活を営みながら、

祖国の独立を心の中に描き、飢えと貧しさの中、よく耐えて生きてきたが、

一朝にしてその尊い生命が敵の地で、血を流しながら倒れ、死を迎えることになろうとは。

空が崩れ大地が突き上がるこの悲しみを何と言おうか。

韓国原爆被害者協会

会長 成 楽 亀

・・・「第47回韓国人原爆犠牲者慰霊祭」で読み上げられた追悼辞の抜粋紹介・・・

8月5日10時より、広島平和公園内にある「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」の前で、民団広島県地方本部主催の「第47回韓国人原爆犠牲者慰霊祭」が挙行され、刻む会から私と内岡共同代表が今夏初めて参列した。

360人を超える参加者があり、韓国からも僧侶の方々や高校生らが多数かけつけていて、韓国内での原爆犠牲者に対する関心の高さを知ることができた。



360人を超える参加者

1970年に民団の方々のご尽力で平和公園の外ではあったが慰霊碑が建立された。慰霊碑建立までのご苦労はいかばかりだったか、「刻む会」としては少しは理解できるものかもしれない。「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事に習い、韓国産出の石で造られた大きな亀が祖国の方角に向かって土台として据えられた、犠牲者への思いがこもった立派な慰霊碑だ。



韓国より来日した高校生たち

その後、当然にも「平和公園の中に移設を」という声があがり、民団や市民運動に支えられて、1999年にやっと平和公園内に移設されたのだ。

広島平和資料館編纂の「広島原爆戦災誌」によれば、3〜4万人の朝鮮人が被爆したとあり、その内2万人余が爆死したと言われているが、確かな数値はわかっていないという。ただ、広島島の全犠牲者14万人の内、2万人を超える人々が朝鮮人だったという軍都広島の実態に、改めて侵略した側の罪の深さを思い知らされた。刻む会として遅すぎた関わりだったと言える。

追悼の辞は、民団広島県団長、民団中央本部団長、駐広島総領事、韓国原爆被害者協会会長の4名が述べられたが、どなたも現在の朝鮮半島の情勢を憂い、平和的な南北統一を成し遂げることが死者の霊を慰めることになると訴えておられた。刻む会がその一端でも担うことができればと思う。

慰霊祭は、白と青の鮮やかな民族衣装をまとった民団広島婦人会の方々によって、「原爆犠牲者慰霊歌」が捧げられた。厳かな雰囲気の中、献花で締めくくられて、花束に埋もれた慰霊碑を後にした。
猛暑の中だったが、会場には大きな冷風機が設置され、参列者一人ひとりに凍ったおしぼりまで配っていただいて、民団の温かい配慮が伝わってきた。



原爆犠牲者慰霊歌を歌う民団の女性達

駐広島総領事からの呼びかけがあつて、「刻む会」は遅ればせながら参列できたが、やはり、この場に日本政府代表が出席し、共に頭を垂れてご冥福を祈り、犠牲者の皆さまに対し平和の為に尽くすことを誓う場にならなければと心から思った。その日が早からんことを願い、「刻む会」としての責務を一刻も早く果たさなければと心に誓った慰霊祭だった。

書籍のご案内

大韓民国・国務総理所所属 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会 より
『委員会活動結果報告書』（日本語版）の寄贈

がありました。

同委員会が2004年から開始した日本全国の強制動員の被害調査と真相調査及び2008年から行った「慰労金」の支援などの活動（2015年12月31日終了）の成果を記録としてまとめたものです。

ご希望の方は、カンパ300円（送料込）でお送りします。事務局までご連絡ください。



関東大震災時朝鮮人虐殺93周年を 追悼する各地の集会

下関集会



9月3日(土)、第4回関東大震災大虐殺事件を「忘れない集い」が下関の細江カトリック教会ホールで行われました。韓国で真相糾明と謝罪を求める特別法案の立法を求める1923韓日在日市民連帯代表・特別推進委員会共同代表のキム・ジョンスさんが「関東虐殺の国家責任と日韓市民連帯」をテーマに講演されました(参加者約60名)。

また、キム・ジョンスさんは、9月5日の夜には宇部で親睦会、9月6日には長生炭鉱の現地をフィールドワークされました。

関東大震災時朝鮮人虐殺93年 神奈川追悼会

日時：9月3日(土) 10:00～11:30

場所：横浜市久保山墓地「関東大震災殉難朝鮮人慰霊之碑」前

主催：関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川県実行委員会

共済：公益財団法人横浜 YMCA、一般社団法人神奈川人権センター、
神奈川県朝鮮人強制連行真相調査団

神奈川と下関でそれぞれ追悼集会が開催されました。他にも開催されているようですが、今回、「刻む会」へご案内をいただいた二つの追悼集会に参加された方よりコメント及び写真をいただいたので、皆様にお知らせします。

報告者「刻む会」会員 大野剛義

友人2名を誘い、3名で参加。誘った2名は長生炭鉱のピーヤヤ追悼碑見学をしたこともある。

開会の時間より1時間程度早くに着いた。朝鮮学校の中学生が「慰霊碑」の周りの掃除をやっていた。27人。彼らは、追悼式の途中できれいな歌声を聞かせてくれた。

この「関東大震災殉難朝鮮人慰霊之碑」についてだが、石橋大司さんという人が私費で建てたとのこと。石橋さんは、横浜市長に震災で亡くなられた方の墓の整備と虐殺された朝鮮人の慰霊碑を建てて欲しいとお願いしたが、慰霊碑は建てられなかったため、整備された「大震災火災横死者合葬之墓」の隣に私費で碑を建てることになった。彼は当時の虐殺をその目で見ており、口をつぐむのは恥ずべきことと考えてのことだ。

関東大震災時の朝鮮人虐殺被害者は、6千人と言われているが、その半数の3千人は横浜で殺害されたとのこと。主催の当実行委員会は、その横浜での虐殺の実態を明らかにするため4年前に結成、活動を続けている。会の目的は、調査のみならず、知ったことを広めること、犠牲者を追悼すること、更に責任を追及すること。

参加者は152名。

証言記録を会のメンバーが変わるがわる代読するという手法で理解しやすくしようという工夫がなされた追悼式であった。最後に追悼の舞として朝鮮伝統舞踊サルプリも演じられた。

関東大震災時朝鮮人虐殺93年神奈川追悼
集会に先駆けて行われた講演会の報告

シンチャウ
慎蒼宇先生講演会報告

「刻む会」会員 大野剛義



神奈川実行委員会よりいただいた案内チラシ

8月27日、土曜日。18時から横浜にて、「関東大震災朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会」主催の慎蒼宇先生の講演会。「朝鮮植民地支配と関東大震災における朝鮮人虐殺」という題名。

この日は、横浜ベイスタースターズ対読売ジャイアンツのナイターがあり、講演会会場の横浜中央YMCAがちょうどその球場の隣ということもあり電車は超満員。ここでも満員電車か！

講演内容は良かった。関東大震災での虐殺を朝鮮植民地支配との関連で読み解こうという視点。参加人数は40名弱。

この慎蒼宇先生は、法政大学で朝鮮史を研究している准教授。さすが法政大学。講演中に東大の姜尚中先生の名前が出てきたので、姜先生の流れを組む人かと思った。

歴史学会は、とかく、原資料とか公式資料に基づかなければ史実ではない、という連中が多いところだが、慎先生、朝鮮支配に関わった歩兵第14連隊(小倉)の『陣中日誌』を発見。これを読み解き、軍事行動の詳細を把握した。なお、『日誌』とは、軍の公式資料で、その多くは、敗戦直後に焼かれたと言われている。慎先生は、市ヶ谷で焼いていたのが目撃されていると質疑応答の時、言っていた。南京戦もそうだが、捕虜の記録も残していない軍隊ってほんと「近代国家の軍隊」と言えるのか?と思う。

さて、話を戻すが、講演の主軸は、この歩兵第14連隊を含む日本軍の植民地戦争。氏の言葉を借りると「義兵戦争」。

1907年高宗が退位、第三次日韓条約、韓国軍解散と植民地支配を日本は押し進めるが、朝鮮全土で抗日武装蜂起が勃発。日本は日露戦争に匹敵する軍隊を投入してこの鎮圧に努める。この時、歩兵第14連隊も投入されている。

当初は、苛烈な「鷹懲的討伐」。そもそもその根拠は、退位直前に高宗が「暴徒鎮圧の委託」をしたとのこと。公文書としても残っていない根拠。これを受けたとして伊藤博文総監の命令権のもと長谷川好通軍司令官(山

口県岩国出身とのこと)がこの「鷹懲的討伐」を打ち出している。

結果、捕虜の銃殺や連帯責任として村の焼き払いが行われる。『日誌』に詳細な記述があり、やっと「公式に」史実が明らかになった。

ベトナムのソンミ村やパレスチナのディル・ヤーシオン村を思い出した。

『日誌』の集計で1907年7月から1908年5月19日までの義兵側死者数は1万3445名。前言撤回。見せしめという意図は同じも、ソンミやディル・ヤーシオンの規模ではなかった。日帝陸軍の残虐性は既にこの時からあったのかと認識を改めた。

義兵戦争は、全土的には1908年中に鎮圧。甲午農民戦争の本拠地の全羅南北道は1909年まで継続。全羅南北道で義兵は徐々に勢力を増し、1909年に最大規模に発展。これに対し日本側は「帝国の威信」をかけた「南韓大討伐」作戦を決行。弾圧。

この間、国際的批判を恐れ、軍中央からは「暴拳の禁止」の指示が繰り返し出されている。今回、『日誌』が出てきたことにより、実態として現場にどう反映されていたか明らかとなった。要は、軍中央の「暴拳の禁止」はポーズであり、実態は鎮圧優先であり、まずいものは隠ぺいであった。1937年南京戦のはるか30年前からそのような体制が出来上がっていたことに自らの不学を恥じるばかりだ。

武力蜂起そのものは鎮圧したが、これを教訓に日本側は憲兵警察制度を基軸とした武断政治を展開することになる。準備されていたレジュメではその後三一運動などに繋がっていくのだが、時間の関係から講演では割愛。そして1923年9月1日。関東大震災。ご存じの通り、この時、戒厳令が敷かれた。そして、この時現場に出た軍隊は、朝鮮「義兵戦争」で「活躍」した習志野騎兵隊や弘前第8師団であった。習志野騎兵隊は、第14連隊とほぼ時を同じくして、義兵鎮圧のため朝鮮に派遣されていた。

慎先生は、この軍の動きと朝鮮人虐殺に関連性があるのでは？と指摘。時間の兼ね合いで深くは語られなかったが、「朝鮮民族運動への恐怖と憎悪」という言葉がレジュメには見受けられる。この関東大震災を契機に全国的に朝鮮人を敵視する論調が広まったと青森の新聞を例にして述べていた。山口ではどうだったのだろうか？朝鮮民族運動の勃興を恐れ行政なり軍なり民間なりが全国に「警戒」を呼びかけたのではないだろうか。

講演は以上。レジュメには、膨大な資料が付いていた。講演内容も事実として言えることを基に筋立てて述べていくという形式で、歴史学者の立場を徹底して堅持していると感じた。きっと大学でもこのような資料を学生に配り「証拠」示す形で講義しているのだろう。羨ましい話である。しかし、きっと学生はこんな細かい資料を見やしないと思った。かく言う私もこの投稿を書くまでは流し読み

程度であった。もったいない話である。講演の冒頭、学生に歴史修正主義の影響が高まってきたことを述べていた。日露戦争は朝鮮をめぐる帝国内争闘戦という認識ではなく、アジアの国がロシアを打ち破ったという文脈。最後にレジュメにも全文が引用されている虐殺経験者の証言記録の話で締めくくりたい。「関東大震災に於ける朝鮮人虐殺の真相と実態」(朝鮮大学校、1963)にある慎昌範氏の証言。慎先生のおじいさんのお兄さんに当たるとのこと。

慎昌範氏は1923年の8/20に下関に15人の仲間と上陸。恐らく仕事を探しに渡口。8/30に上野泊。9/1被災。向島で飯場を経営している尹さんのところに避難。9/3の夜、津波が来ると大騒ぎになり荒川堤防へ避難。朝方、武装した自警団が襲撃。朝鮮人と見るや日本刀や鳶口で虐殺。本人は抵抗するも日本刀や竹槍で傷つけられ気を失い、「死体」として魚市場の魚のように鳶口で両足を引っかけられ、引きずられて寺島警察署の死体置き場に。その後、奇跡的に弟が発見。警察署に留められたまま、まともな治療は受けられず、ほぼ放置された状態であったが、驚異的な体力により回復。存命し虐殺の証言者に。

若干調べると、向島は隅田川と荒川に挟まれた地域で、日雇いの街の山谷は隅田川の西、向島は東という位置関係。荒川とは、荒川放水路のことで、正に当時開削が進められていた。そこに朝鮮人の飯場があり、慎さんらは

それを頼って避難。そして自警団が狙い撃ちの如く襲撃。このような歴史的背景があったのではと想像される。

今日の講師の慎先生の怒りはいくばくものか。

侵略側が隠ぺいや焼却ということを行いなから無かったことにしようとする中、資料を発掘し相手に有無を言わさない形で突き付けていこうとする。その背景に侵略された側の憤りを感じる。また、何故、侵略した側でなく、された側がこうも相手の土俵に立って闘わなければならないのか。不条理である。

口語になってしまいが、すごいな、僕も頑張ろ、と思うばかりである。



おまけ

「関東大震災における朝鮮人虐殺の事実を究明する横浜の会」は、この度、『関東大震災時朝鮮人虐殺 横浜証言集』を発刊され、追悼集会で販売されました。

運営委員会報告

(2016年6月13日～2016年9月23日)

事務局長 小畑太作

【委員会開催】

1. 第4回 7月22日(金) 欠席1名。
2. 第5回 8月26日(金) 欠席3名。
3. 第6回 9月23日(金) 欠席4名。

【学習会・フィールドワーク受け入れ】

8月10日(水)～11日(木)
日本基督教団西中国教区「ヤスク二問題研
修会2016」

【学習会等の開催】

7月31日(土) 夏の学習会企画実施

【追悼ひろば】

1. 韓国在住の美術家により脚本『アボジは海の底』に沿った絵画を依頼。
2. 植栽散水装置を修繕。垣根の剪定実施。

【遺骨等収集】

1. 政府交渉のために、引き続き地元国会議員により厚労省及び地元自治体との交渉経路の構築を継続。
2. 7月2日(土) 大邱特別市にて開催された韓国遺族会総会に委員5名を派遣。17名の検体を採取し鑑定。14名分の解析結果を取得した。遺族データベースも引き続き作成中。

【追悼集会について検討】

来会予定の韓国観音宗との連絡調整及び実施内容について検討。9月30日(金)観音宗来日打合せの準備。

【宇部市長との協議】

第31回長生炭鉱水没事故問題解決協議会(8月19日(金))に参加。市役所側は、地域福祉課・教育委員会・国際政策課より5名が出席。市民側は5名(いずれも「刻む会」運営委員)が参加。

1. ピーヤの説明板について

人権侵害に該当する記述に関する「異議申立書」を市教委会議にて取り扱っていないことに対して、7月22日(金)行政不服審査法による審査請求書を提出。8月26日(金)却下通知。次の手立てを検討。

2. ピーヤ等の保存

ピーヤの史跡登録の申請について、市教委が「所有者なし」を理由に取り扱わないことに対して、7月22日(金)異議申立書を提出。9月15日(木)却下通知。次の手立てを検討。

3. 市民への教育

「宇部市石炭記念館」への展示について、新たな提案書を提出。またCG化を専門家と協議。

4. 追悼集会への協力

次回追悼集会の宇部市後援について、8月28日(日)要望書を提出。9月末日までの期限で回答待ち。

5. 「遺骨等の収集と返還」「追悼碑への協力」については時間が無く継続。

第32回協議会は11月中開催の予定。日程は市長よりの連絡待ち。

【関係資料収集】

紙媒体資料と映像資料のいずれも、デジタル化を進行中。将来的にはインターネット上にライブラリを解説し設置していく予定。

【資料の発刊】

1. 韓国で出版されている長生炭鉱に関する書籍二冊の日本語版出版に向けて、遺族会を介して著者と出版社との連絡調整。
2. 当会創立25周年に当たり『記念誌』を『証言・資料集』第三集として発刊を計画。内容を検討。

【山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題】

1. 「朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク」に参加協力し、毎月開催の県庁前抗議行動と座談会ならびに下関市役所への申し入れ行動に引き続き参加。チラシとHPの作成の担当を継続している。専用の郵便振替口座を設置。管理を担当。
2. 宇部市議会への請願について『議会だより』報告に、市教委の憲法と国際条約についての未検討発言が削除されていることに対して、9月8日(木)修正の要望書を提出。文書での回答待ち。
3. 同校に対する寄付金について、9月9日(金)申込書を提出。

【他団体との連携】

2016年韓国人原爆犠牲者慰霊祭および午餐会8月5日(金)に委員を派遣。

【その他】

8. 14日本軍「慰安婦」メモリアル・デー・アピール賛同

会計報告 (2016年6月1日～2016年8月31日)

(円)

【一般会計】

	科目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
歳入						
1	会費	360,000	92,000	366,000	101.7%	
2	寄付金	1,200,000	299,100	385,531	32.1%	※
3	物販	60,000	7,900	12,900	21.5%	
	証言・資料集	30,000	1,600	6,600	22.0%	
	その他	30,000	6,300	6,300	21.0%	
4	雑収入	5,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,625,000	399,000	764,431	47.0%	
歳出						
1	事務費	55,000	8,106	39,819	72.4%	
2	広報費	280,000	41,719	41,719	14.9%	
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	2,444	3,116	31.2%	電気代、修繕費
5	活動費	820,000	21,067	77,655	9.5%	
	学習会等	70,000	9,121	62,029	88.6%	映画上映、夏学習会他
	追悼集会	500,000	0	0	0.0%	
	その他活動	250,000	11,946	15,626	6.3%	韓国人原爆犠牲者慰霊祭派遣他
6	他団体会費等	50,000	0	10,000	20.0%	
7	雑支出	40,000	1,470	12,660	31.7%	
	手数料	20,000	1,470	7,660	38.3%	
	その他	20,000	0	5,000	25.0%	
8	予備費	40,000	0	0	0.0%	
	小計	1,325,000	74,806	184,969	14.0%	
9	特別会計へ繰出	300,000	0	0	0.0%	
10	繰越金	0	324,194	579,462		
	合計	1,625,000	399,000	764,431	47.0%	

※ 寄付者 (敬称略)

市川真美恵 猪股 清子 姜 潤 華 菊池 登 金 優 木村 英人
 斉藤美代子 坂 貞子 佐々木洋子 実国 義範 島村眞知子 田中 豊
 崔 正 剛 辻 建 中里 仁一 林 尚志 光成 和正 三宅 冬樹
 宮田 幸好 森居 政幸 NPO 法人 三千里鐵道 日本基督教団西中国教区
 (その他匿名 8 名)

会員数 (2016年9月23日現在)

正会員 85 名 (個人 76 名・団体 9 名) / 賛助会員 197 名 (個人 190 名・団体 7 名) / 寄付者 101 名

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,978,116				
繰入金	0		繰越金	1,978,116	
合計	1,978,116		合計	1,978,116	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,792,900		DNA 鑑定費	275,240	17 名他
繰入金	0		繰越金	1,517,660	
合計	1,792,900		合計	1,792,900	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

NHK 教育 「こころの時代」(2016年1月9日、NHK Eテレ 再放送)



文化人類学者：加藤久祚さん^{かとうきゆうぞう} (本名：李九祚^{イ ク ジョン}さん)

【視聴して思ったこと】

～長生炭鉱に関連する部分を中心に～

加藤久祚さんの講演会を
緑橋教会と共催で企画し
ていましたが、9/12急死さ
れました。
ご冥福をお祈りします。

共同代表 内岡貞雄

- ・加藤久祚(李久祚)さん 1922年生まれ。1932年の10歳の時、10歳上の二番目の兄を頼って一人で渡日、宇部に来た(小学校4年)。長生炭鉱への坑木運搬を生業としていた兄と馬小屋の隣の納屋で一緒に暮らした。1932年といえば、長生炭鉱(頼尊淵之助会長、頼尊隼太・山田新松共同経営者)が本格的に操業した時期にあたる。この時期、海底坑道を延長・補強する坑木が坑内に運び込まれ、炭車軌道が敷かれた水平坑道が沖合に延びた。電車坑道(1941年に着手)
- ・1932年頃、坑木運搬には馬車を使用され、馬は大変貴重な存在であった。山口武信・元「刻む会」代表(故人)によれば、当時の馬付き馬車の値段は1,000円ほどだったという。
- ・馬小屋といえば、全錫虎(チョン・ソッコ)一家のことを思い浮かべる。1942年2月の事故後、新社宅(線路近くにあったという)を追い出された一家は、浜中集会所近くの馬小屋(友人宅)で暮らすようになった。
- ・長生炭鉱元労働者の秋順得(チュ・スンドク)さんの坑外図によると、坑木置き場は坑口の南一帯に置かれていた。また、1942年2月3日の水没事故犠牲者の一人、中元琴二さん(享年47歳)は広島出身の大工さんで、坑内の天井・側壁を坑木で覆う仕事をしていた(甥の中元寿一さん証言)。
- ・10歳の加藤久祚さんは学校から4時か5時に帰り、(弁当は貧しいため持っていくことがなかった)それから麦飯の食事を取った。その後、山に草刈りに毎日出かけた。馬に食べさせる草をとるためだった。『ふごに鎌 あかざれ手もて 飼い葉せし 馬のぬくもり 今に忘れず』(加藤久祚さん作)。
加藤さんは馬のぬくもりに故郷のオモ二のことをなつかしんだ。馬が自分になつてくれたのが本当に嬉しかったと言う。
- ・20歳のお兄さんは、毎日、長生炭鉱の坑内に運び入れる坑木を運んだ。その坑木の入手場所は不明だが、おそらく地主所有の山林から長生炭鉱まで運んで行ったと思われる。お兄さんは夕方6時、7時に帰ってきた。大変な重労働だったと想像される。
- ・1945.8、日本敗戦後、シベリアに抑留(4年8か月)されますが、その様子は加藤久祚「シベリア記」(潮出版、1980年)に書かれています。
- ・加藤さんは『過去を知ることは現在を知ること』と述べられる。慶北大学(キョンブクテハッキョ)で講演をされたが、殿平善彦さん(北海道一乗寺ご住職)が遺骨発掘で協力してもらった漢陽大学校(チョン・ビョンホ教授)とはどんな関係なのか、お互いにお知り合いだったらいいのにと考えた。

最後に、ゲーテの言葉『人生はいいものだ。絶望することのない人間は生きていないに相違ない。生きるというのはとにかくいいことだ』を述べられた。とても心の籠った放送でした。放映中、長生炭鉱のピーヤも画面に出てきました。

追：加藤久祚さんは今年9月12日未明(日本時間)、中央アジアのウズベキスタン南部の病院でお亡くなりになりました。94歳でした。加藤さんは大学の学術調査顧問として現地入りされていましたが、7日から体調を崩し入院されていたそうです。心からご冥福をお祈りいたします。

※ NHK 教育 「こころの時代」(2016年1月9日、NHK Eテレ 再放送)をご覧になりたい方は、事務局までご連絡ください。

【長生炭鉱水没事故75周年犠牲者追悼集会】

日程変更のお知らせ

『刻む会たより No.61』で追悼集会の日程を2017年2月4日(土)とお知らせしましたが、遺族会より変更したいとの申し出があり、以下の日程に変更になりました。なお、今回は、韓国より観音宗の方々が約80名参列予定です。

2017年2月18日(土) 詳細は次号掲載予定です。

「たより」同封物

☆振込用紙

☆チラシ「朝鮮学校の子ども達がピンチです！」